

市内の若者にイベントを通して 気仙沼を好きになってもらうことは可能か

1. 序論

現状: 高校生の気仙沼に対する
関心度が低い

目的: 同世代が気仙沼に
興味を持ってもらう活動をする

背景: 気仙沼の良さを体験できる環境が
少ない

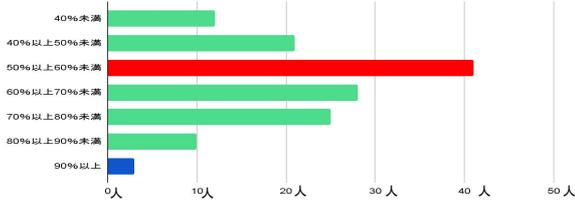
仮説: 高校生の関心度が高まること
によって、市内の高校生に気仙沼を好き
になってもらうことは可能ではないか。

2. 調査

①FWとアンケート

- ・気仙沼市内の事業所への訪問
- ・県内の大学教授へ他者から見た気仙沼の印象を質問
- ・気仙沼高校の全校生徒を対象に気仙沼の好感度はどれくらいか Classiアンケート実施。(計148人)

気仙沼の好感度はどれくらいですか？



②市内の高校生向けのイベントの開催 【イベント名】

気仙沼×○○を100個出す！
➡高校生を中心に10名参加

【目的】

自分でアイデアを
作ることで、気仙
沼にさらに興味を
持ってもらうため。



5603A班

3. 結論

調査①より

市内の事業所のW様→ニーズを形に！

県内の大学のT教授→気仙沼愛を持つこと
が大切！

アンケート →現在の気仙沼に満足している
高校生はあまりいない。

調査②より

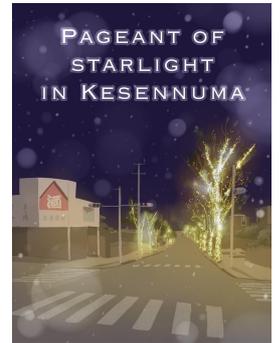
気仙沼×
・スケボー ・イルミネーション ・写真
など計250個の案が出された

4. 展望

《イベントの開催、提案》

①Pageant of starlight in Kesenuma (今後開催予定)

- ・階上駅など夜明かりの少ない所を
ライトアップ
⇒町の灯りを増やし
安全にする
⇒気仙沼の街並みに
関心を持ってもらう



②写真コンテスト

- ・テーマ「気仙沼の景色」
- ・撮ってもらった写真を共有
⇒自分の知らない気仙沼の素敵な場所を発見
することができる！
※①のイベントと関連づけて行う予定。

参考文献

誰も教えてくれないイベントの教科書

著:テリー植田 出版社:本の雑誌社 出版年:2019年